

オフィス敷地内の木材を有効活用

木の温もりあふれる

テーブルを製作

オーダーメイドオフィス家具納入事例

本田技研工業株式会社
(Honda 和光ビル)



PLUS Furniture
Company

Custom-made office furniture
installation examples

INDEX

01. ABOUT HONDA

ホンダとは

02. ABOUT THE PLAN

企画について

03. ABOUT THE DESIGN

デザインについて

04. BEFORE/AFTER

ビフォーアフター

05. INTERVIEW

インタビュー



ABOUT HONDA

01

ホンダとは

本田技研工業株式会社（Honda）は、「自らの技術で人の役に立ちたい」という思いのもと、1948年に創業した日本を代表する自動車メーカーです。二輪車、四輪車、航空機やロボティクスなど多岐にわたる分野で事業を展開し、革新的な技術と挑戦を通じてグローバル市場で高い評価を得続けています。埼玉県和光市にある「和光ビル」は、2004年に青山にある本社より国内営業を含む一部機能が移管され、ホンダの拠点として重要な役割を担っています。

地球環境を守る活動を推進

ホンダでは、自然環境の保全と地域社会との共生を目指し、「HondaWoods（ホンダウッズ）」や「ハローウッズ」といった取り組みを展開しています。「HondaWoods」は、工場や研究所などのホンダが所有する事業所を取り囲む森を育てる活動です。育てた森は、地域住民を対象とした環境教育やイベントの場として活用されており、地域に根差した環境保全活動に発展しています。また、「ハローウッズ」は、栃木県芳賀郡茂木町にあるモビリティリゾートもてぎ内で運営されている自然体験施設です。ホンダ創立 50周年を機に開設されたこの施設を通じて、生物多様性の保全など自然保護活動に取り組んでいます。

02

ABOUT THE PLAN

企画について

ホンダでは、「和光ビル」の敷地内で伐採した桜の木材を長年保管しており、その木材を有効活用できないか、というところからオフィス家具を手がけるプラス株式会社とのオーダーメイドテーブルの製作の企画が始まりました。

プラスでは、木材が持つ魅力と利点を最大限に活かしながら、同時に木材を扱う難しさや課題を専門家たちと連携して解決し、企画を遂行。和光ビルの「顔」とも言える、エントランスの商談スペースなどに設置するテーブルを製作・納入しました。

企画概要

ホンダの「和光ビル」敷地内で伐採され、「ハローウッズ」で長年保管されていた桜の木材を再利用したオーダーメイドテーブルの製作

プラスの対応範囲

企画提案、テーブルのデザイン・設計・製作、レイアウト設計、テーブルの搬入

製作期間

2.5 ヶ月

製作物

木材テーブル

納入数

（正方形テーブル5台、長方形テーブル8台、円形テーブル2台、ハイテーブル6台、給茶機用長方形テーブル1台）
合計 22 台

フロー

企画・要件内容の協議・決定 ▶ テーブル、レイアウトの設計・デザイン ▶ 木材の人工乾燥 ▶ 製作 ▶ 納入

注力ポイント

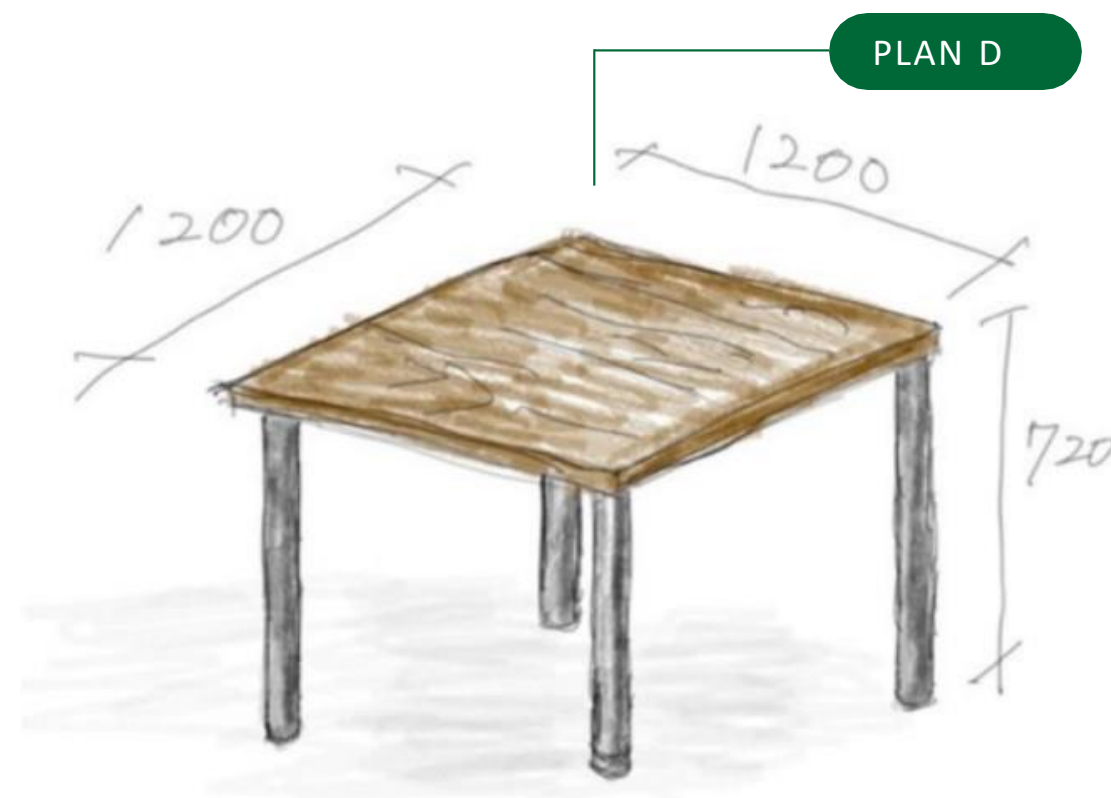
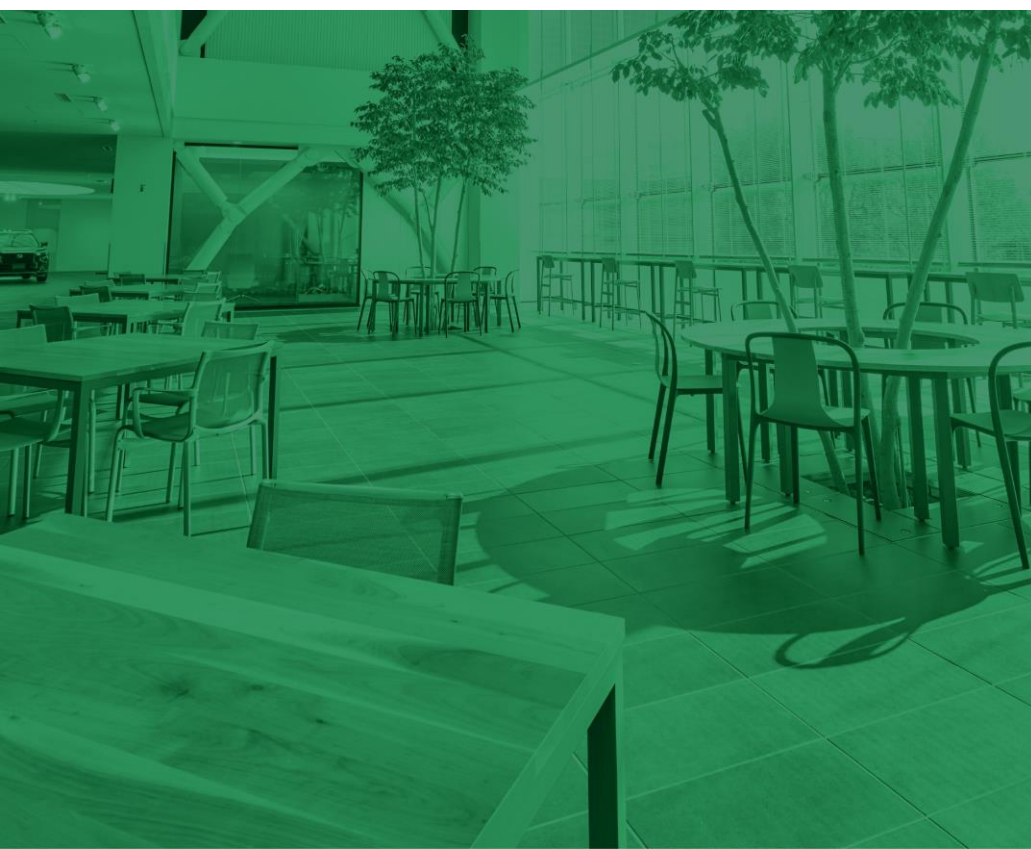
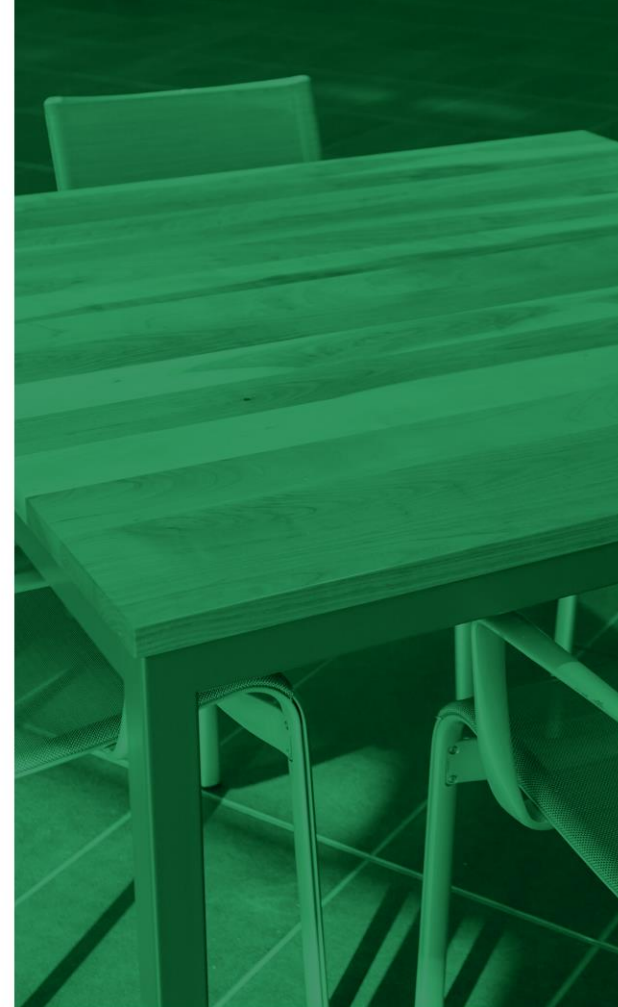
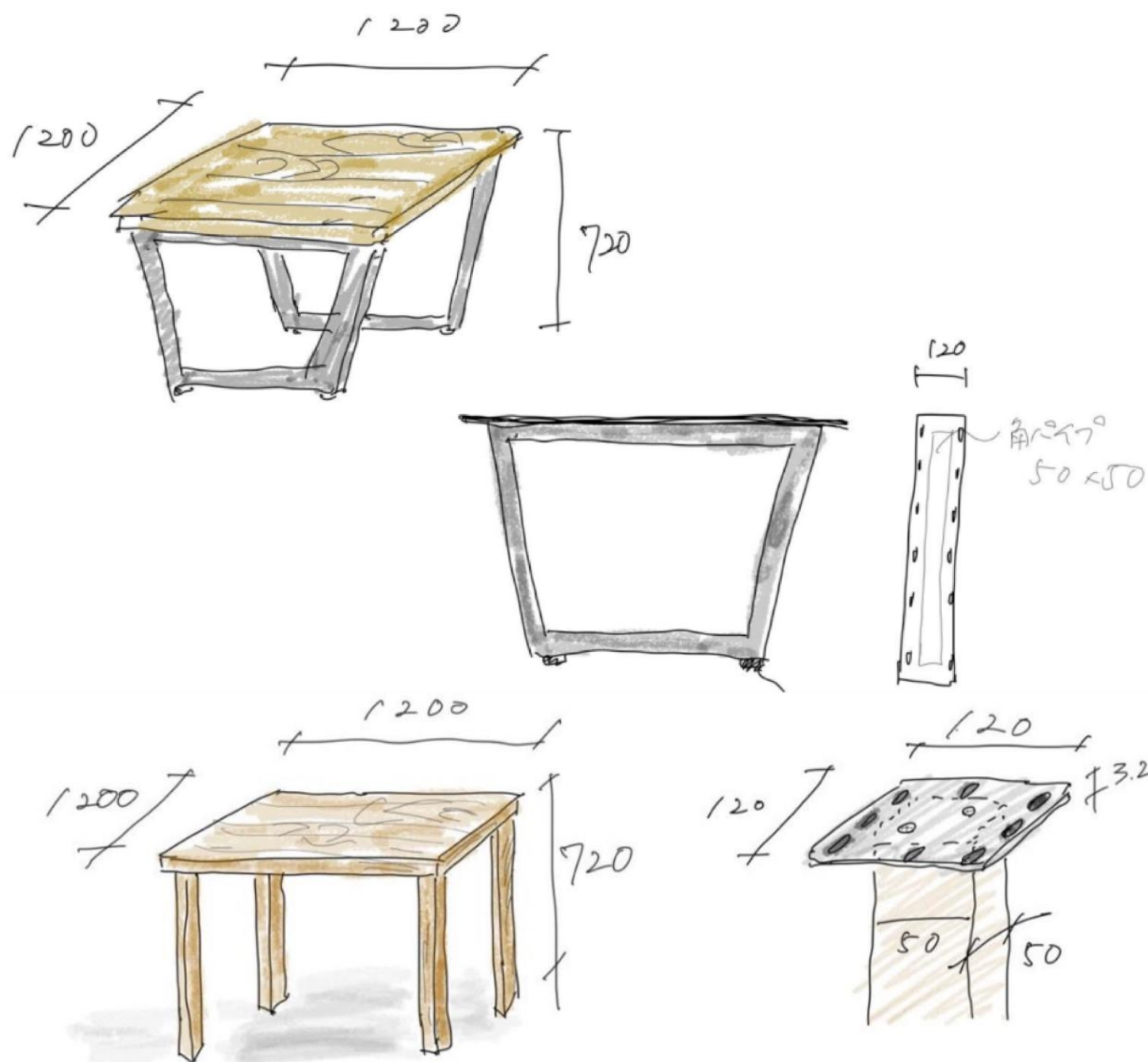
木材の質感・風合いを活かした空間に馴染むデザイン設計、
テーブルの強度の確保

03

ABOUT THE DESIGN

デザインについて

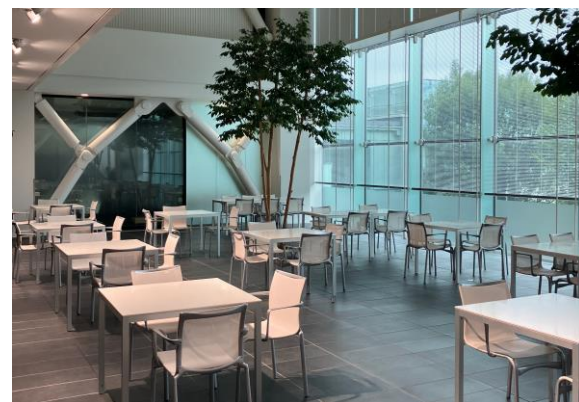
テーブルのデザインは、脚の素材や形状が異なる PLAN A～Dまでの4案をプラスが作成。その中から、シンプルな角形スチール脚の「PLAN D」がベース案として採用されました。脚部は、重量のある無垢材天板をしっかりと支えられる強度を持ちながら、商談スペースの空間に馴染むよう細身に設計されており、床材と同色の特注品です。天板は、赤身や白身、虎斑模様といった桜の木の風合いを活かすため、素朴さを残したデザインに仕上げました。



04

BEFORE

AFTER

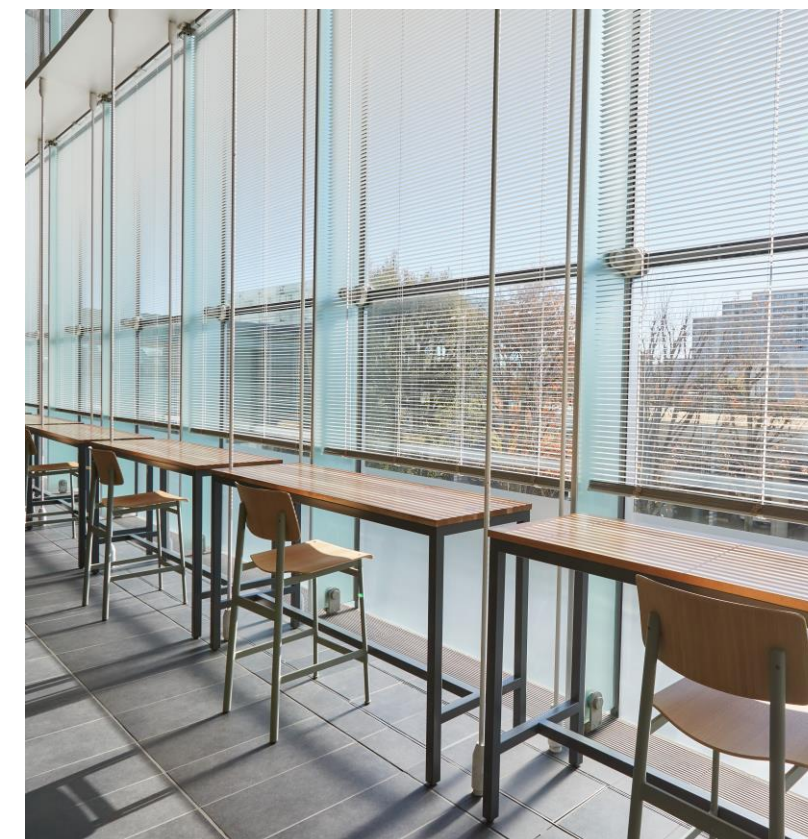
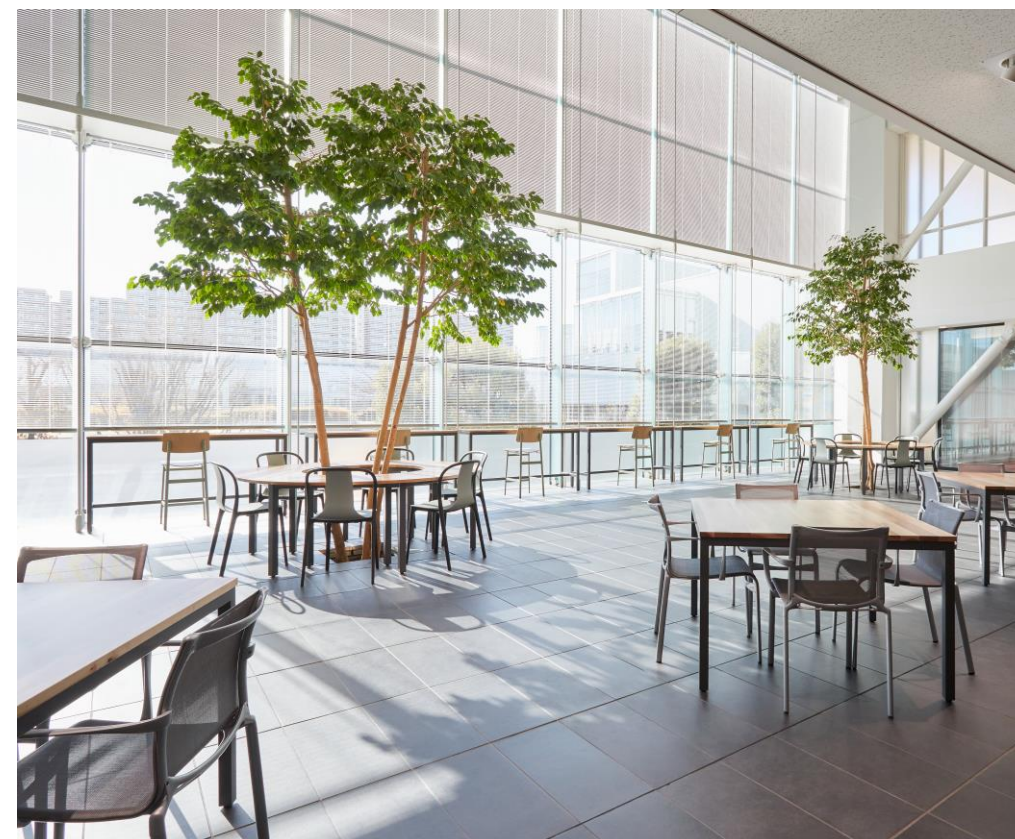


BEFORE



ビフォーアフター

以前は家具が白で統一され、クールでシンプルな印象だった商談スペースが、桜材の天板が目立つテーブルを配したことで、温かく優しい空間に変化を遂げました。商談スペースのシンボルとも言える樹木や一面のガラス窓から降り注ぐ日光とも、木材のテーブルが自然に調和しています。また、樹木を取り囲む円形のテーブルを製作・配置したことで、空間に遊び心が生まれ、会話が弾んでアイデアも広がりやすい場所になりました。



AFTER

インタビュー

今回、本企画を推進・実行したホンダとプラスの4名で座談会を実施。企画の背景やアイデアをどう形にしていたのかについて、振り返りました。また、その中でホンダがどんな要望を伝え、プラスがそれにどう応えていったのかも伺いました。

Profile



祐川浩之

部長

本田技研工業株式会社
コーポレート管理本部
人事統括部 総務部

会社保有資産の最大化および地球環境対策の両面から、部で推進中である会社所有地の森林の保全に着目し、本企画の助言と後押しを行った。



金口都桃美

主任

本田技研工業株式会社
コーポレート管理本部
人事統括部 総務部 総務二課
CRE 企画グループ

ホンダ所有の不動産を対象に、企画業務を担当。青山本社を拠点に和光ビルのオフィス環境の改善を企画・推進しており、本企画の主推進を行った。



鈴木龍二

プラス株式会社営
業本部
クリエイティブ事業部
プロジェクト営業部 営業二課

本件の担当営業として、企画全体の推進をサポート。提案から予算管理、スケジュール調整、納品に至るまでの進行管理をフロントで担当した。



戸田光貴

株式会社スペースアンドプレイス
代表取締役

無垢材の特性を熟知した木のプロ。今回の企画では、扱いの難しい無垢材の設計や加工、製造と、家具が納入されるまでのすべての過程を担当した。

*所属・役職は2024年12月時点の情報です。



「桜の木を和光に里帰りさせたい」という 想いから、企画がスタート

今回の企画が始動した背景を教えてください。

金口（ホンダ）：もともと、栃木県茂木町に「モビリティリゾートもてぎ」というホンダの関連施設があり、その間伐を進めなければならないという話がありました。ちょうどその頃、和光ビルの家具入れ替えの話も出ていたので、「間伐した木材を使えないか」というアイデアが浮かんだんです。その話を社員にしたところ、プラスさんを紹介してもらいました。

最初の打ち合わせで「木材の乾燥には長い期間が必要」と伺い、希望の納期には間に合いそうになかったのも、一度は計画を諦めました。でも、「もてぎ」に行った際、

ハローウッズ森のプロデューサーの崎野隆一郎さんに案内された倉庫に、大量の乾燥済みの木材が保管されているのを見つけたんです。

祐川（ホンダ）：その木材が、およそ十年前に和光ビルの敷地内で伐採された桜の木だったんですよ。老木化して伐採せざるを得なかったものです。あまりに立派な木だったので木材を捨てられず、それまで大事に保管していたようです。

金口：その話を聞いて、「この木をもう一度和光に里帰りさせたいね」という話になり、今回の企画が動き出しました。委託先を探すにあたって他社も検討しましたが、私たちが持っている木材を活用できるという会社は少なく、実現できると言ってくれたプラスさんをお願いするに至りました。

目指したのは、素材と空間を 最大限に活かしたデザイン・設計

プラスには、当時どのような要望を出しましたか？

金口：もともと、ホンダでは「リソースサーキュレーション」という取り組みを進めていまして。これは環境負荷の軽減の観点から、使い終わった車の部品やEVバッテリーなどをリユース・リサイクルしようという思想です。この企画でも、その思想を反映させたいと考えました。



そこで、特に大切にしたのは「昔、和光ビルの敷地内に植わっていた桜の木が、形を変えて戻ってきた」という背景が伝わる家具をつくることでした。それを踏まえて、桜材の温かみや風合いを最大限に活かしつつ、オフィス空間との調和もとれるテーブルを製作してほしいとオーダーしました。プラスさんには細かく要望をお伝えしていきま



プラス側では、ご要望にどう応えていったのでしょうか。

鈴木（プラス）：ホンダ様が明確なイメージをお持ちだったので、プラスとしてはそれを形にしていくことに注力しました。まず、桜の無垢材の自然な表情と温かみを感じてもらえるように、天板の塗装はツヤなしのウレタンを採用して、人工的なツヤを抑えました。木材の手触りの良さを残しつつ、防水性も維持しています。

金口：天板については、桜材のサンプルを見比べられたので、完成のイメージが湧きやすくて助かりました。それに、ウレタン塗装のおかげで水に強い仕上がりになったので、給茶コーナーでも安心して使えるのが嬉しいです。

鈴木：そう言っていただけて、良かったです。

金口：他にも、商談スペースにもともと植っている木を活かした、円形テーブルの製作にもこだわっていただきましたよね。木の下で人が集えるような形にしたかったので、木を丸く囲む形状で、なおかつちゃんと木の根元も見えるデザインにしてくださいとお願いしました。



鈴木：そのご要望に応えられるデザインにしつつ、現場への搬入や設置も考慮してテーブルを3分割できる設計にして、スムーズに組み立てられるように工夫もしました。それから、テーブルの脚にもこだわりましたよね。主な設置場所の商談スペースは、一面にガラス張りの窓がある爽やかな空間なので、テーブルの脚が見栄えの観点で重く見えないようにできるだけ細くし、本数も最小限に抑えました。角度によっては、脚が重なって実際の本数より少なく見えるようにもしています。脚の色も、床に合わせてグレーにしました。



木のエキスパートと職人が、木材や家具の強度を実現

今回の企画において、最大の課題はなんでしたか？

鈴木：耐久性とデザインのバランスを取ることが課題でした。家具製作においては、なによりも強度が重要です。ただ、これを確保しようとする、通常は脚が太くなったり本数が増えたりしてしまうんです。

戸田（スペースアンドプレイス）：少人数が使う自宅用と不特定多数が使う家具では、求められる強度が異なるんです。特に無垢材は重いため、慎重な検討が必要でした。そのため今回は、家具専門の設計士や現場の職人と何度も議論を重ねました。設計図をもとに職人と話し合い、サンプルを製作・調整する工程を何度も繰り返しました。こうしたプロセスを経て、デザイン性と耐久性を両立するスチール製の脚を完成させたんです。

強度の面で試行錯誤があったんですね。

鈴木：はい。他にも課題として、今回は未加工の無垢材を扱う難しさもあったので、経験や知見が重要になると判断して戸田さんにご協力いただきました。

戸田：無垢材を家具に使用する場合、含まれる水分割合を10%以下に抑えないと不具合が起きるため、十分に乾燥させる必要がありました。急激な乾燥はひび割れのリスクが高いため、まずは適切な環境で数ヶ月から数年かけてゆっくり乾燥させ、そのうえで乾燥機を使用するのが理想です。今回の木材はすでに自然乾燥されていたので、東京の檜原村にある工場の乾燥釜を使って約2週間だけさらに乾燥させて、経験豊富な職人が最終加工を行うことで品質を担保しました。



鈴木：とにかく乾燥に時間がかかるので、プラスでは工程を逆算して木材の引き取りを行うなどスケジュール管理を行いました。

要望や理想を形にして、満足のいく仕上がり

企画全体を通して、プラスの対応はいかがでしたか？

金口：プラスさんがこちらの要望を丁寧に聞いて、それを実現してくださったのでありがたかったです。木材の専門家にも関わっていただいたおかげで、実現可能性もふまえて、ちゃんとやりたいことができました。無理なお願いもたくさんしてしまいましたが、柔軟に対応していただきました。

鈴木：今回はホンダ様の中ですでに明確なイメージがあり、弊社はそれを具現化する形で進めたので、スムーズに進行できました。また、戸田さんの知識や経験を活かしながら進めたことで、より完成度の高いものを作り上げられたのではないかと考えています。

今回の企画において、特に満足している点を教えてください。

金口：気に入っているポイントは、全部です！ 先ほどお話しした「リソースサーキュレーション」の観点でもかなり満足しています。

椅子は、もともと使用していたものの張地をグレーに張り替えました。以前の白い張地だと空間で浮いてしまっていたのですが、グレーにしたことで空間との一体感が生まれて、主役である桜の木のテーブルもより引き立つようになりました。ちなみに、もともと商談スペースで使っていた白いテーブルは、天板に桜の突板を貼ってリノベーションしてもらい、今はオフィスエリアで活用しています。

古いものも捨てずに再利用しつつ、全体の調和をとれた点も良かったですね。



桜の木のテーブルがきっかけで、昔話に花が咲くことも

テーブルを設置後、お客様や社員の方々からの評判はいかがですか？

祐川：おかげさまで、とても評判がいいですね。以前はテーブルが真っ白で無機質な空間でしたが、今回のテーブルのおかげで明るく優しい場所になったので、お客様にも「いい雰囲気ですね」と言っていただくことが多く、会話のきっかけにもなっているようです。社員が「実はこれ、和光ビルに生えていた桜の木なんですよ」と話すと、昔の弊社を知る方は「あの桜の木か」と懐かしんでくださるそうです。

金口：社員からも「カフェみたいな居心地の良い場所になったね」という声が上がっています。また、以前は空間に木が生えていることに気付きにくかったんですが、テーブルのデザインが変わったことで、「ここって木が生えてたんだね」と改めて気づいてもらえるようになりました（笑）。



最後に改めて、企画を通して感じたことがあれば、教えてください。

祐川：敷地内で役割を終えた木が、また同じ場所で新たな形で活躍できたのは、改めて素晴らしいことだと感じています。CO²の固定化という観点では、木を炭にして利用する方法もあるかもしれませんが、今回のように人の心に訴える形で再生できたことに、大きな価値を感じています。

金口：ホンダが「HondaWoods（ホンダウッズ）」や「ハローウッズ」といった取り組みをしているなど、自然環境の保全に対して高い意識を持っていることは、実は社員でもまだまだ知らない人が多いです。今回のような企画が、全社的な取り組みを社内外の方に知ってもらう良いきっかけになれば嬉しいです。

PLUS Furniture Company

<https://kagu.plus.co.jp/>

働き方のヒントを探すオフィス見学

プラス オフィス見学

